

はしば 橋場遺跡 第3次調査

所在地	二戸市福岡字橋場
調査原因	公共下水道工事に伴う緊急発掘調査
調査期間	平成25年7月9日～8月2日
調査面積	約270㎡
主な時代	縄文（晩期）
主な遺物	縄文土器、石器、土製品（土偶（遮光器土偶）、土面）

①遺跡の説明

橋場遺跡は馬淵川右岸の低位段丘上に立地している縄文時代晩期の遺跡です。

これまで福岡城の土塁部分の調査、個人住宅建設に伴う事前調査の2度の発掘調査が実施されており、縄文時代晩期の遺物のほか、古代（平安時代）の竪穴住居跡が確認されていました。

②調査の内容

調査は公共下水道本工事の掘削幅に合わせて概ね1m幅で行いました。調査区の中央付近では地山が大きく沈むところがあり、現状では全くわかりませんが、当時は沢状の地形であったと考えられます。最も深いところで現地表から2mの深さに達し、土留めを設置しながらの調査となりました。この概ね30m幅の沢からはコンテナ20箱ほどの大量の遺物が出土しており、ここが土器捨て場であったと考えられます。しかし、遺構はほとんど確認されず、焼土を伴う不明遺構と土坑が確認されたのみでした。

③調査の結果

調査区の一部で縄文時代晩期の大規模な遺物包含層（土器捨て場）が確認され、ここからは縄文時代晩期の土器などが数多く出土しました。器種も多種に富んでおり、深鉢、鉢、台付鉢、皿、注口土器、ミニチュア土器のほか、遮光器土偶、土面などの土製品も多く見られます。土器には赤く彩色されたものもありました。



今回の調査区内においては、竪穴住居跡は確認されませんでした。周辺には集落が営まれていたものと考えられます。